

地域共生社会の実現に向けた福祉医療実践 ①

『聖ヨゼフ病院の福祉医療実践』

社会福祉法人 聖テレジア会 聖ヨゼフ病院
事務部長 野沢 剛

1. 聖ヨゼフ病院について

聖ヨゼフ病院は、神奈川県横須賀市の中心地横須賀中央駅から徒歩約8分に位置し、海上自衛隊や米海軍基地が近くにある丘の上に立地しています。当院の前身である「横須賀海仁会病院」は、1939年(昭和14年)に、旧日本海軍の下士官やその家族のための診療施設として建設されました。当時の建物は、近代建築家石本喜久治氏によって設計され、敷地に合わせて緩やかにカーブした曲面が美しいモダンな建築として知られていました。終戦後、横須賀の医療環境を再建するため、当時の米海軍横須賀基地司令官であったデッカー大佐が、戦後の地域復興にはキリスト教の精神による献身的な医療が不可欠であると考えカトリック横浜司教区のブルトン司教(カトリック女子修道会「聖母訪問会」の創設者)に病院の経営を託し、「聖ヨゼフ病院」として一般市民に開放された病院として再出発しました。その後、運営母体は「聖母訪問会」から「聖テレジア会」へと受け継がれ現在に至ります。横須賀海仁会病院から80年以上にわたり診療を行ってきた旧病院ですが、老朽化と耐震

等の問題もあり、2020年に同敷地内へ新病院を建設しました。また、2025年には旧病院跡地に聖ヨゼフ在宅ケアセンターを建設し、在宅系の事業所の拠点となっています。

聖ヨゼフ病院は「キリストの生き方に基づいた惜しみない人間愛」を理念に、「良質であたたかい医療」「信頼される安全な医療」「地域に根ざした医療」を基本方針としています。急性期から在宅までを支える地域密着型の病院を目指し、同敷地内の在宅5事業所(訪問看護ステーション、ヘルパーステーション、居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、看護小規模多機能ホーム)とも連携し、地域包括ケアシステムの構築をはかっています。



横須賀海仁会病院

■病院概要■

社会福祉法人聖テレジア会 聖ヨゼフ病院
 理事長：足立 徹也
 病院長：柴田 朋彦
 住 所：〒238-0018
 神奈川県横須賀市緑が丘28番地
 診療科目：内科・呼吸器内科・リウマチ科・
 整形外科・リハビリテーション科・
 放射線科・麻酔科
 病床数：182床（一般病床70床、地域包括
 ケア病床65床、療養病床47床）
 職員数：280名（令和8年2月現在）
 法人内施設：
 鎌倉リハビリテーション聖テレジア病院、鎌倉
 療育医療センター小さき花の園、七里ガ浜ホー
 ム（いずれの施設も神奈川県鎌倉市）

■沿革■

昭和14年3月 横須賀海仁会病院が現在地に
 創設され、旧海軍軍人、その
 家族の診療を開始
 昭和21年7月 カトリック女子修道会聖母訪
 問会に経営が移管され、名称
 を聖ヨゼフ病院と改める
 昭和27年5月 法人組織を社会福祉法人に変
 更し、第2種社会福祉施設として
 の業務開始
 昭和36年7月 総合病院聖ヨゼフ病院と名称
 を変更
 昭和40年8月 救急病院に指定
 平成15年3月 病棟種別一般病棟として届出
 平成17年4月 聖母訪問会から聖テレジア会

に法人名称変更。

平成18年5月 療養病棟(40床)届出
 (一般病棟142床)
 平成19年4月 一般病床146床、
 療養病床36床に変更
 平成27年1月 一般病床142床、
 療養病床40床に変更
 平成29年4月 聖ヨゼフ病院に名称変更
 一般病床135床、
 療養病床47床に変更
 平成30年4月 地域包括ケア病棟46床届出
 令和2年3月 新病院竣工
 令和7年1月 聖ヨゼフ在宅ケアセンター竣工
 令和7年6月 一般病床70床、
 地域包括ケア病床65床、
 療養病床47床に変更
 現在に至る

■現在の取り組み■

以前は総合病院として診療科も10科以上あり産科や小児科診療も行っており、職員の中にも当院で生まれたという職員が多数いますが、時代の流れ、地域の診療体制等の変遷にあわせ選択と集中ということで現在では内科・整形外科を中心とした医療を提供しています。専門性にとらわれない内科診療と高度な整形外科診療、さらに内科と整形外科が連携し質の高いリウマチ診療を地域の皆様に提供しています。また、急性期の外来・入院診療のみならず、急性期治療を終えた患者様の在宅復帰を支援する地域包括ケア病床、長期にわたって療養を必要とする患者様を支援する療養病床の運用等、ケア

ミックス病院として幅広い診療活動をおこなっております。

地域との連携では、横須賀市からの受託事業として横須賀市を4つのブロックに分けたひとつの北ブロックにおいて当院は拠点病院の役割を担っています。地域の在宅診療医や介護系事業所、調剤薬局や行政の方たち等、多職種にて集まりブロック会議を開催し、地域での課題や情報共有等おこなっています。

また、社会福法人として無料低額診療事業にも力を注いでおり、生活困窮者支援等にも取り組んでいます。

2. 地域医療連携課について

当院では地域とのあらゆる連携の担当課として、地域医療連携課を設置しています。地域医療連携課には「地域連携室」「入退院支援室」「医療相談室」の3つの部署があり、看護師の課長をトップに地域連携室には事務職員3名、入退院支援室には看護師6名、医療相談室には社会福祉士1名という体制で業務をおこなっています。地域連携室では、地域の医療機関や施設との円滑な連携が主な業務となっています。入退院支援室では入院支援担当と退院支援担当の配属となっており、入院支援担当は入院される方のお話を伺い必要な制度の説明や申請のお手伝い、退院支援担当はご本人やご家族のお話を伺い退院先のナビゲーションや介護保険サービスの申請のお手伝い等が主な業務となっています。医療相談室では、外来・入院診療にかかわる経済的・心理的な不安等の総合的な窓口のほ

か、行政の福祉課等とのパイプ役が主な業務となっています。地域医療連携課には3つの部署がありますが、部屋は一つでありそれぞれの担当業務で重なる部分も多いことから部署の垣根を越えて院内連携をしています。無料低額診療事業については、入退院支援看護師からの情報をもとに社会福祉士が家庭環境や経済状況を確認し、減免の対応をするというパターンが多くみられます。

また、横須賀市を4つの地域に分け、その中の北地区において地域の医療・介護等の連携を図ることを目的としたブロック拠点病院の役割を当院が担っています。その窓口は地域医療連携課であり、会議の開催に向けた担当幹事会の開催や関係各所への連絡、当日の会議の運営等をおこなっています。ブロック会議では各回テーマを決め、地域の診療所の医師や薬剤師、訪問看護師、ケアマネジャー、行政の職員等、多職種にて地域での課題や情報の共有等の話し合いをしています。



聖ヨゼフ在宅ケアセンター

3. 今後目指す福祉医療について

現在、聖ヨゼフ病院と同敷地内に設置している在宅5事業所（訪問看護ステーション、ヘルパーステーション、居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、看護小規模多機能ホーム）にて、医療・介護の連携を通じ地域包括ケアシステムの構築を目指しています。在宅療養中の方への訪問看護、訪問介護やデイサービス、ショートステイの利用、急病時の入院等、地域の方々が安心して暮らせるお手伝いをおこなっています。

また、医療・介護の連携に限らず広義の意味での地域共生社会の土壌を育てています。具体的には医療・介護事業だけでなく、地域自治会が主催する企業部会（地域の学校、銀行、新聞社、百貨店、一般小売店、等が参加）への参加や地域の祭礼、運動会等の参加をおこない、地域で

顔の見える関係作りをしています。また、院内ボランティアも積極的に受け入れており、カトリック教会関係者や、地域住民、地元の高校生や大学生等の方々に幅広く活動していただくとともに、患者様ではない方々との交流によって医療の提供のみではわからなかったことの発見があったりもします。

最後に、地域の中で医療が必要、介護サービスが必要ということだけではなく、何かあれば聖ヨゼフ病院に相談ということが実現できるよう、今後も地域との関わりを大切にしていきたいと考えています。横須賀市は高齢者人口の割合が全国の平均を上回るほど超高齢化が進んでいる地域であり、今後もその傾向は続くと思われます。その中で当院が社会福祉法人として地域社会に医療・介護だけでなくあらゆる面での支援、貢献ができるよう運営していきたいと考えています。



新棟